

## 2012年度の企画展

今年度もみどころたっぷりの様々な展覧会を企画しています。(所蔵品展の紹介は4ページをご覧ください。)

### スタジオジブリ所蔵 メアリー・ブレア原画展 人生の選択、母のしごと。

4月28日(土) - 7月8日(日)

ディズニーのアニメーションをまったく新しい境地へと導いたメアリー・ブレア。今も人気のディズニーランドのアトラクション「イッツ・ア・スマールワールド」のデザインも手がけ、フリーランスのデザイナーとなってからも、母としての優しい眼差しを大切に幅広く活躍しました。スタジオジブリが所蔵する作品を中心にご紹介します。

メアリー・ブレア《レモネード・ガール》1960年代  
©The nieces of Mary Blair



### シャガール展 2012 —愛の物語—

7月30日(月) - 9月23日(日)

詩情あふれる色彩で愛を謳いあげる20世紀の巨匠マルク・シャガール[1887-1985]。生誕125周年を記念する本展では、ロシアの国立トレチャコフ美術館、国立ロシア美術館が所蔵する代表作を中心に、国内の優品を加え、油彩・水彩・版画など約100点を展示します。特に1920年に国立ユダヤ劇場のために制作された壁画群は見もので、全幅約8mの大壁画が圧倒的な力で迫ります。

マルク・シャガール《街の上で》1914-18年  
国立トレチャコフ美術館蔵  
Photography ©The State Tretyakov Gallery  
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012, Chagall®

### ジパング展

10月6日(土) - 12月2日(日)

マルコ・ポーロが日本を「黄金の国ジパング」と呼んでヨーロッパに伝えてから約700年。日本から発信する現代美術が今、新鮮な発見と驚きをもって世界の人々に迎えられています。本展では、日本の伝統芸術のDNAを受け継ぎながら、従来の表現の枠に留まらず、自由闊達な表現をする新進気鋭の作家たちの作品を紹介します。

#### 出品予定作家

会田誠、池田学、風間サチコ、  
鴻池朋子、三瀬夏之介 など



上田順平《ツカイモノ》2006年

撮影:来田猛

### マンチェスター大学ウィットワース美術館所蔵 巨匠たちの英国水彩画展

12月18日(火) - 3月10日(日)

イギリス、マンチェスター大学ウィットワース美術館は、世界屈指の英国水彩画のコレクションで知られています。本展では、そのコレクションから、J.M.W.ターナーやウィリアム・ブレイク、ジョン・エヴァレット・ミレイやエドワード・バーン=ジョーンズなどの巨匠による約150点の名品を選びすぐり、18世紀後半から19世紀に至る英国水彩画の全容をご紹介します。

ジョン・エヴァレット・ミレイ  
《ブラック・プランズ'ウッカー》1867年  
©The Whitworth Art Gallery



©Junpei UEDA/Courtesy imura art gallery

スタジオジブリ所蔵

# メアリー・ブレア原画展

人生の選択、母のしごと。

4月28日(土) - 7月8日(日)



《ケヴィンとドノヴァン》1950年代  
©The nieces of Mary Blair



「イット・ア・スマールワールド」コンセプト・アート 1964年  
©Disney Enterprises, Inc.

メアリー・ブレアを知っていますか?女性が仕事を持つことが珍しかった時代に、あのウォルト・ディズニーに才能を認められ絶大な信頼を得て、ディズニーの世界をまったく新しい境地へと導いた女性です。

メアリーは、「ピーター・パン」「ふしぎの国のアリス」「シンデレラ」でカラー・スタイリングを担当、ディズニーの初期の名作群を生む中心的な役割を果たし、また、現在も世界のディズニーランドで人気のアトラクション「イット・ア・スマールワールド」のメインデザインも担当しました。

フリーランスになってからは、イラストレーションの仕事、広告の仕事、舞台美術、絵本……と幅広い仕事をこなしました。描かれた子供たちの愛らしさは、子供を持つ母親ならではの表現かもしれません。また、プライベートで描いた子供たちの肖像画には、メアリーの愛情深い母親としての一面がストレートに感じられます。プロのアーティストであると同時に母親としての愛情を忘れないかったメアリー。女性は家庭に入ることがあたりまえだった時代、彼女は男社会の厳しい風当たりの中にありながら、後続に大きな影響を与える仕事を残したのでした。

みんなを夢中にさせる、メアリーの魔法の色と形をお楽しみください。

## シャガール展 2012 —愛の物語—

7月30日(月) - 9月23日(日)

長岡の新潟県立近代美術館で開催された

シャガール展が大盛況だったのは2002年の夏のこと。

それから実に10年ぶりで再び

シャガールの作品に新潟で出会えます!

20世紀の巨匠の生誕125周年となる今年、日本だけでなく世界的に見ても、シャガールに捧げられる幾つもの展覧会が計画され、あるいは開催中です。それらの中で、本展の特徴は二点挙げられるでしょう。一つは、1920年モスクワのユダヤ劇場のための壁画群が再構成されること、第二は、愛妻ベラとの幸せな結婚を巡る代表作のうち、ロシアの著名美術館に分蔵されている2作品が揃うことです。

第一のユダヤ劇場の壁画群は、1920年に設立された客席90ほどの小劇場のこけら落としに間に合わせるよう、シャガールが短期間のうちに制作したものです。舞台の衣装や装置まで依頼を受けたのですが、実際には壁画と天井画と緞帳のみが制作されました。大いに評判を呼んだのですが、その後の運命は数奇なものでした。作者シャガールは1922年には故国を離れ、作品自体も1924年の劇場移転に伴い天井画と緞帳が失われ、残りの壁画もソヴィエト政府が劇場を閉めた1949年に外されてしまいました。しかし、作品はトレチャコフ美術館の収蔵庫に運ばれ、密に守り続けられてきました。

1973年に政府の招聘で故国を再訪したシャガールを迎えたのがこれら壁画群でした。50年を超えての再会に涙したシャガールは作品に署名を入れ、傷んだ壁画群の修復を懇請しました。結果1991年にやっと公開が実現し、複雑な意味に彩られたシャガールの傑作は、世界各地で紹介されることになりました。



《散歩》1917-18年 国立ロシア美術館蔵  
Photography ©The State Russian Museum  
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012, Chagall

《街の上で》(表紙図版)《散歩》(国)の2点は、ペラと結婚し、娘イダに恵まれたシャガールが、溢れる幸せを絵筆に載せるかのように作品を制作していた充実期の代表的な作品です。画家の高揚する気持ちそのまま、描かれた人物は軽々と宙に浮かんでいます。所蔵先が異なるこれら2点の作品を並べて見比べができるのは、ロシア国内でさえ滅多にないことなのです。

幸福感に満ちたシャガールの作品は、自己の経験や感情と無縁ではありませんが、個人的な思いを直截反映しているだけではありません。恋人たちの主題が繰り返される一方で、妻も娘も大切にしていたシャガールに、親子(父娘)の主題が余り見当たらないのは示唆的ではないでしょうか。また、男女の愛は、神話や歴史を素材に19世紀まで扱われ続けてきましたが、20世紀に入ると正面きって取り上げる作品は減ってきます。そうした時代の中で、シャガールはあえて追及すべき主題として恋人たちの姿を選択しました。そうした普遍的の主題に個人的恋愛を重ねたのは、大胆な試みと言えるでしょう。その点にシャガールの独自性があり、またロシアのユダヤ人という特定の文化的背景を超えて、世界的な人気を得ている理由を指摘できるのではないでしょうか。

# イベントピックアップ

## 企画展「クレーとカンディンスキーの時代」2011.10.22-12.11

### コンサート&トーク

展覧会に合わせて曲目を選定。

その曲の紹介や説明を交えながら演奏しました。

新潟交響楽団メンバーによる  
ストリングカルテット



## 企画展「新潟の画家たち」2011.12.23-2012.2.19

新潟県出身の10人の画家の展覧会で、それぞれの作家すべてにイベントを担当していただき、人気を博しました。

### アーティスト・トーク



作家自身から直にお話しを聞くチャンス。  
この期を逃すまいとファンが集まりました。



### ワークショップ

作家が直に指導するワークショップ。簡単な作業から生まれる個性豊かな創作活動に参加者はみんな満足でした。魅力ある作品の秘密も体感できたかも。



### 日本画実演

日本画の作家がその場で絵を描いてみせるというイベントを行いました。人気作家の筆裁きをみようと、多くの人が集まりました。



## 試み 美術館の外へ… 市民とのつながりを求めて

これをたくさん  
並べます。



こどもも、おとなも、中学生も  
参加しました。



光を受けて輝く「水玉」

平成23年の夏、新潟県立万代島美術館ではちょっと変わった新しい試みを行いました。

当館が設置されている施設「朱鷺メッセ」の、外光がふんだんに入ってくる明るい場所エスプラナードで、この時期開催していた「藤城清治展」の作品《水玉の中のメルヘン》の世界をみんなで作ろうというものです。

展示期間の前に、館外——元気なお年寄りが集まる新潟市各地区の「ティールーム(老人サービス)」や放課後子どもたちが集まる各地区的「ひまわりクラブ(学童保育)」など——にお願いして学芸員が出向きワークショップを行いました。集まった368点の作品を、当館のサポートメンバーに協力してもらいながら展示、そして展示期間中にもワークショップを行い、144点の作品がプラスされました。

館外でのワークショップがきっかけとなって、ティールームでツアーを組んでくださったり、家族揃つて美術館においていただきました。また、簡単な作業で作ったものを組み合わせることによってきれいな楽しいものが生まれることを知った人からは、「また来てほしい」との声も聞かれました。

この試みのポイントは、美術館が外へとアピールすることによって「市民とつながる」ことでした。その意味では、これまで「美術館」にはほとんど縁がなかったお年寄りや子供たちと美術館との間に、細いかもしれないけれど、つながる糸ができたのではないかと思います。一回きりで終わらずに継続していくことが重要なのかもしれません。

# 2012年度の所蔵展

新潟県立近代美術館と万代島美術館で所蔵している6,000点を越える作品の中から、テーマを設けて新たな切り口で作品を紹介します。

## ひとの姿／人のかたち

2013年3月20日(水)～3月31日(日)

人間にとって一番の関心の対象は「ひと」ではないでしょうか。遠い昔、古代ギリシアのブリニウスは、壁に映った恋人の影の輪郭をなぞることで絵画が生まれたのだと伝えています。そうしたロマンティックな逸話はさておき、古来西欧では、伝統的に風景よりも人物を描くことに重きが置かれ、美術学校ではまず人物の裸体描写を徹底的に習得することから手習いを始めてきました。言うまでもなく、写真が生まれるまでは、絵画や彫刻が人の面影を留め、人の姿を永遠化する特別な手段でした。

こうした写実的な表現のみならず、これまで美術家たちは様々なやり方で人物を描き、また人間を描くことをとおして自分の表現を追究してきました。今回の所蔵品展では、興味の尽きない「ひと」の様々な姿・かたちをめぐる作品を取り上げます。幾つかのセクションに分けて、様々な試みを楽しんでご覧いただきたいと考えています。ここでは展示予定の作品をひとつ紹介します。



前田寛治《赤い帽子の女》1925年

前田寛治(まえた・かんじ 1896-1930)は鳥取県生まれで、東京美術学校に学んでパリに留学、帰国後も活躍が期待されながら、残念ながら早く亡くなりました。

前田が好んだ主題の一つは帽子を被る人物像で、特に赤い帽子を被る女性をパリ時代から帰国後まで様々に描いていました。本作もそうした一連の試みの一つに当たります。

帽子、唇、服の赤い色が印象的で、上着の黒がその効果を高めています。その一方、モデルの相貌は曖昧で、西欧人とも日本人とも明らかになりません。前田の他の作ほど人物の存在感が感じられないのは、ひょっとすると、モデル自体が目の前にいなかったからかもしれません。いずれにせよ、造形的な試みを優先して制作した作品と言えそうです。



新潟県立万代島美術館では、皆さんに美術館により親しんでいただくために、サポートメンバー(ボランティア)を募集しています。内容は、美術館および展覧会のイベントへの協力と、当館の活動や展覧会準備の補助です。希望される方は、美術館受付やHPでダウンロードした応募用紙に必要事項を記入し、お申し込みください。

URL : <http://www.lalanet.gr.jp/banbi/>

## 新潟県立近代美術館の企画展

[開館時間] 午前9時～午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで)

[休館日] 月曜(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日が休館)。年末年始、臨時休館あり。

TEL:0258-28-4111(代表) <http://www.lalanet.gr.jp/kinbi/>

### ●亀倉雄策賞の作家たち

4月27日(金)～6月3日(日)

### ●地上の天宮 北京・故宮博物院展

7月3日(火)～8月5日(日)

### ●水の記憶:吉原悠博映像プロジェクト

8月14日(火)～9月2日(日)

### ●象徴派—夢幻美の使徒たち

9月8日(土)～10月21日(日)

### ●GUN—新潟に前衛があった頃

11月3日(土・祝)～  
2013年1月14日(月・祝)

### ●東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華

2013年  
3月16日(土)～5月8日(水)

## 新潟県立万代島美術館 The Niigata Bandaijima Art Museum

〒950-0078

新潟市中央区万代島5-1 朱鷺メッセ内 万代島ビル5F

TEL:025-290-6655 FAX:025-249-7577

URL:<http://www.lalanet.gr.jp/banbi/>

### HOW TO ACCESS



新潟県立万代島美術館は、新潟市を貫く信濃川の河口にある複合施設「朱鷺メッセ」の中、万代島ビル(ホテル日航新潟と同じ建物です)の5階にあります。

#### 新潟駅から

- バス…………約15分  
(万代橋バス停より「佐渡汽船」または「新潟市観光循環バス」に乗車。「朱鷺メッセ」にて下車。)
- タクシー…………約8分
- 徒歩…………約25分

#### 自動車(有料駐車場有り)

- 新潟西ICより…………約30分
- 新潟中央ICより…………約20分
- 新新バイパス紫竹山ICより…………約15分

#### 信濃川ウォーターシャトル(水上バス)

- 新潟ふるさと村から…………約50分
- 新潟市歴史博物館から…………約5分

#### ■開館時間 午前10時～午後6時(観覧券販売は閉館30分前まで)

#### ■休館日 月曜(月曜が祝日の場合は開館し、翌日が休館)

年末年始、展示替期間

※展覧会により異なりますので、  
展覧会ごとにご確認ください。

#### ■観覧料免除

新潟県内の高等学校・特別支援学校が、教育活動として美術館に団体引率をする場合、所定の用紙で事前に(見学の一週間前)申請をすることにより、観覧料が免除されます。美術の授業、社会科見学、遠足などさまざまな形でご利用いただけます。